

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 農学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ「教育内容」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「教育課程の編成」

農学部国際コースの開設に向けた外国人教員採用等

九州大学は文部科学省の平成21年度国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択を受け、10月入学で英語による授業のみで学士の学位を取得できる、外国人留学生のための「農学部国際コース」を開設した。これは、すでに本学生物資源環境科学府において実施している、「国際開発研究特別コース（修士課程および博士後期課程）」の実績・ノウハウを生かし、その学部版として事前の日本語教育を必要とせずに、ひろく優秀な学部留学生を受け入れて英語による農学教育を施すことにより、グローバルに活躍できる人材を育成することを目指している。また、既存の本学府国際開発研究特別コースと高い整合性を維持させることにより、さらに高度な専門教育を英語で受けることができるようカリキュラムデザインされている。これにより、九州大学としての特色ある人材の育成が可能である。

教員組織面から本国際コースを実効あるものにするために、外国人教員の採用を進めてきた。農学研究院（農学部）における教員人事としては初めてとなる外国人（外国籍）限定での教員公募（准教授1名，農学研究院定員枠）を行った。さらに、任期付き（5年間）教員（准教授）として3名の外国人教員を採用した。一方、国際コースの実施・運営のための委員会（国際コース実施WG）等を設置し、国際コース運営のための対応組織を整備した。

外国人教員は、学部および大学院の一般（日本人学生対象）コースの教育にも参画することから、国際コースにおける教育の質的向上に留まらず、日本人学生の国際化対応等への効果も期待できる。さらに、今回の外国人教員の採用により、本研究院教員の教育・研究への波及効果も期待される。